

## 令和7年度 第4回 丸塚中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月17日（火） 13時25分から15時00分まで
- 2 開催場所 丸塚中学校 多目的ルーム
- 3 出席委員 稲垣 邦圓、尾上 弘、名倉 善郎、酒井 里江子、  
鈴木 厚子、湯山 紀美代、青木 優衣、劉 志奈、
- 4 欠席委員 田嶋 節子（学校支援コーディネーター）
- 5 学校 渡瀬 益章（校長）、山下 孝二（教頭）、平野 大輔（CS担当教諭）  
石津谷 訓子（CSディレクター）
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 石津谷 訓子
- 8 議長の選出

司会の教頭山下から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、尾上委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

### 9 協議事項

- (1) 学校関係者評価について
- (2) 来年度の学校運営基本方針について
- (3) 学校運営協議会の自己評価について

### 10 会議記録

司会から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

#### (1) 学校関係者評価について

教務主任鈴木から、学校評価アンケート結果に基づいた考察と、今後の課題の報告があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ このアンケートでいじめなどの問題があった回答に対して、生徒を特定して事実確認をしているか。（名倉委員）  
→ このアンケートではしていない。年2回行っているいじめ認知アンケートなどで対応している。（渡瀬校長）
- ・ いじめ認知アンケートで出た問題は、全職員で共有しているのか。（鈴木委員）  
→ 緊急性のないものは、週1回のいじめ対策委員会で共有している。（渡瀬校長）
- ・ コスモス教室に行かせてもらっているが、去年に比べて人数が減った。全体的に

見ても学校満足度は向上しているのではないかと思う。(尾上委員)

- ・ アンケート結果で「命の尊厳について指導しているか」でそう思わない先生が7%いる結果が気になった。ゼロになると良いと思う。(劉委員)
- ・ キャリアが長い先生は、色々な経験をしてそのたびに命の尊厳について考えるだろうが、若い先生がどんどん入ってきて認識が失われていく可能性もあるので、そういう面で指導していただけたらと思う。(尾上委員)
  - 分析はしていないが、この時代に命を大事にしていない先生は一人もいないと思う。ただ、教科だけを教えていて学年に所属していない先生もいるため、生徒に直接指導する機会がない先生もいる。次回のアンケートまでに質問の仕方を変更するように検討する。(渡瀬校長)
- ・ 命の尊厳の指導とは、具体的にどんな指導か。(青木委員)
  - 6月の「命の日」に、学校集会や学年集会、また道徳で生命尊重というテーマを扱うなど、あらゆる機会に取り組んでいる。(渡瀬校長)
- ・ 「SNSの利用」で、生徒の自信と保護者が感じている不安との乖離がある。そのギャップを埋めるための対策をしているか。(鈴木委員)
  - SNSのトラブルがあるたびに指導をしていて、生徒も間違っていると分かっても感情に流されてやっつけてしまっている。多分守っている子は多いと思うが、一部の生徒が繰り返しやっつけてしまう。(渡瀬校長)
- ・ 間違ったことだと分かっているのにやっつけてしまうのは、思春期で心も頭も十分に成長できていないからなのか。他国のように法律で16歳未満の使用を制限する時代になってきたのか。(鈴木委員)
- ・ 学校だけでなく、保護者も危機感を持って考えて欲しい。(湯山委員)
- ・ SNSのルールを教えるだけでなく、そのルールを破った先の被害総額や損害賠償等の現実も教えて行かないといけない。(尾上委員)

## (2) 来年度の学校運営基本方針について

校長渡瀬から、来年度の学校経営構想案が提示され、学校運営基本方針の説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 生徒一人一人が自分の意見を出し合い、相手の意見を取り入れた上で考えを発展させる。合意形成は難しい課題だと思うが、そこを目指すことが凄いなと思うし、とても楽しみだ。(鈴木委員)
- ・ 「勇気づけのボイスシャワー」とあるが、良い教えや言葉を何度も生徒たちにかけるということはすごく良い手段だと思う。(稲垣委員)
- ・ 部活の在り方が変わっていく中で、先生方の取組や指導の場がどのように変わるのか。(尾上委員)
  - 来年度の9月以降に変わるが、部活での規律を守らせる、忍耐力を養うという指導が難しくなると思うので、教育課程のなかでそういう場を作っていくしかない。(渡瀬校長)

- ・ 先生方の勤務時間や内容も色々大変だと思うが、昨年度よりも改善されたことや、来年度も働きやすく教育に専念できる体制はどのようになっているか。(稲垣委員)  
→ 今年度はテスト作成のプロセスの見直しや、来年度は部活動の地域移行による教材研究時間の確保を引き続き推進する。(渡瀬校長)

以上の協議の結果、全員異議なくこれを了承した。

### (3) 学校運営協議会の自己評価について

- ・ 学校からの説明も細やかで分かりやすく、質疑を経て学校運営への理解を深めることができた。(尾上委員)
- ・ P T Aから離れてしまい情報発信する場が減ってしまったので、個人的には十分にはできなかった。(劉委員)
- ・ ホームページや自治会回覧を通してよく行われた。(鈴木委員)
- ・ このような協議会があることを知らない人もいると思う。認知してもらうには、どのような方法があるのか、自分自身も考えてみたいと思う。(湯山委員)
- ・ 本年度の目標である生徒の生の声を聞くことはできなかったが、生徒の実態に即した支援の在り方を熟議することができた。(酒井委員)
- ・ 学校の課題や各教科からの要望を基にした依頼を聞き、それに合わせた学校支援をしていきたい。(稲垣委員・尾上委員)

以上の協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

### ○ その他報告事項等

教頭山下から、夢育やらまいか事業(C S加算分)についての報告があった。また来年度の運営協議会(全4回)の日程と、第1回運営協議会は令和8年4月28日(火)に開催予定である旨の報告があった。